

株式会社リコーは、1936年2月6日に日本で設立されました。リコーグループは、株式会社リコーおよび子会社376社、関連会社28社で構成*されており、世界5極(日本、米州、欧州、中華、アジア・パシフィック)において、複写機やプリンターなどの事務機器・情報機器を中心に、光学機器やデバイス製品などの開発・生産・販売・サービス・リサイクルなどの事業を展開しています。全世界での従業員数は、7万4千人を超えています。

リコー本社事務所
〒107-8544
東京都港区南青山1-15-5 リコービル
代表電話 03-3479-3111
ホームページアドレス
<http://www.ricoh.co.jp>

* 関係会社の範囲は米国会計基準に基づいていますが、日本の会計基準における関係会社の範囲との差異は僅かです。

リコーグループのブランド

リコーグループは、RicohおよびSavin、Nashuatec、RexRotary、Gestetner、Lanierの各ブランドで製品を販売しています。

ブランドマーク



リコーグループの主な事業内容

複写機器

アナログ複写機、デジタル複写機、カラー複写機、マルチファンクションプリンター(コピー、ファクシミリ、プリンター機能を持った複合機)、デジタル印刷機、複写機器保守サービスおよび関連消耗品、その他

情報機器

ファクシミリ、レーザープリンター、パソコン、サーバー、ネットワーク機器、ネットワーク関連ソフト、アプリケーションソフト、光ディスク応用商品、情報機器保守サービスおよび関連消耗品、その他

光学機器

デジタルカメラ、銀塩カメラ、レンズ、その他

その他

半導体、PCB(Printed Circuit Board: プリント回路板)、その他



imagio Neo 220/270
(Aficio 1022/1027)



IPSiO Color 8150
(Aficio AP 3800C)

Aficioは、日本以外で販売している名称です。

ビジネスに対する考え方

リコーグループは、お客様満足度の向上をキーワードに、時代のニーズを先取りした製品やシステムをお客様にお届けしています。さまざまなネットワーク環境に、自由に機器やアプリケーションをつないでコミュニケーションするために、オープンで使いやすいプラットフォーム「リコードキュメントハイウェイプラットフォーム」を開発したこともその一例です。このプラットフォームに基づいてデジタル複合機「imagio Neoシリーズ」やレーザープリンター「IPSiOシリーズ」、文書管理ソフトウェア「Ridocシリーズ」などを開発し、ドキュメントハイウェイの実現を推進してきました。また、これらの製品の省エネ化やリサイクルを推進し、世界中で高まるグリーン購入のニーズに対しても積極的な提案*1を行っています。リサイクルシステムなど環境保全活動を通じて構築したシステムなどを提供し、多くのお客様で課題になっている「環境経営」をサポートするビジネス*2もスタートさせようとしています。リコーグループは、ドキュメントソリューションに加え、環境ソリューションをお届けすることにより、さらにお客様満足度の高い企業を目指して行きます。

*1 41ページを参照。

*2 42ページを参照。

2001年度の成果と対外的評価

米国市場^{*1}におけるオフィス用デジタル機器の分野で、リコーグループ製品は2001年度、2年連続のシェアNo.1にランクされました。また、ヨーロッパ市場^{*2}でも、デジタル、アナログ両分野のオフィス用白黒複写機で5年連続シェアNo.1にランクされました。日本では、第三者によるお客様満足度調査で、複写機部門において7年連続No.1の評価^{*3}をいただきました。また、環境経営についても、英国フィナンシャルタイムズ紙の調査で世界7位にランクされるなど、世界的に高い評価^{*4}をいただいています。

*1 Ricohおよびグループ傘下のSavin、Gestetner、Lanierの各ブランドの販売台数を合計したものです(1~10枚/分の区分を除く)

出典:ガートナーデータクエスト(2002年2月)GJ02276

*2 Infosource S.A社による調査で、Ricoh、Gestetner、Nashuatec、RexRotary、Lanierの各ブランドおよびOEM提供分を含みます。国別では、イギリス、フランス、イタリアをはじめ17カ国でトップシェアでした。

*3 J.D.Power Asia Pasific社による調査です。

*4 60ページを参照。

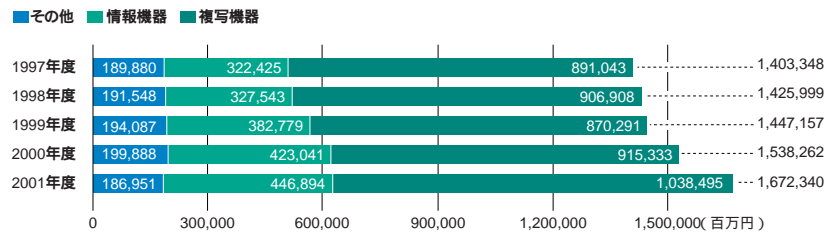
経済的成果と次期の見通し

2001年度のリコーグループの売上高は1兆6,723億円と前期に比べ8.7%増加し、8期連続の増収(7期連続最高更新)を達成しました。純利益は616億円と前期に比べ15.8%の増益となり、10期連続の増益(8期連続最高益更新)を達成しました。次期の業績については、景気の動向や為替の変動など不確定要素はありますが、9期連続の増収、11期連続の増益を目指します。

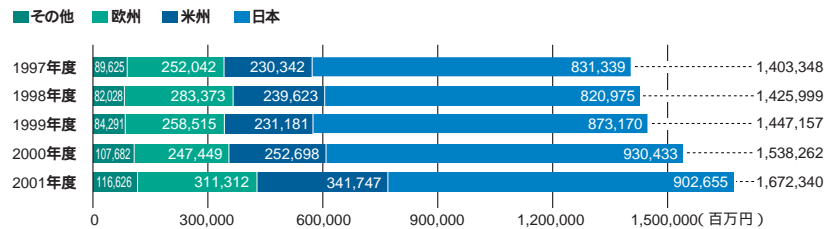
詳細はリコーのIRホームページ

(<http://www.ricoh.co.jp/IR>)をご覧ください。

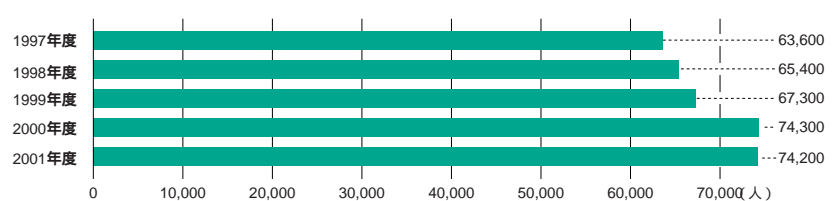
リコーグループの事業別売上高



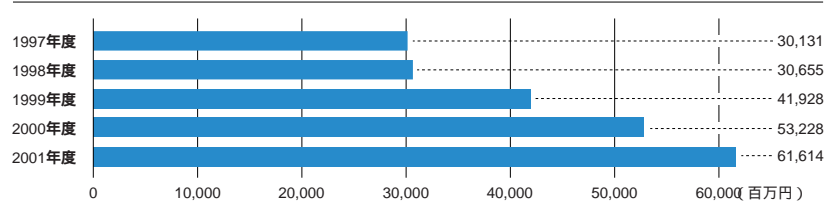
リコーグループの地域別売上高



リコーグループの従業員数



リコーグループの純利益



事業概要データは、有価証券報告書のリコーグループの範囲における実績を表記しています。環境負荷データの収集・記載範囲とは一部異なります。

リコーの株価および株式売買高推移

